日田市埋蔵文化財調査報告書第36集

高瀬条里深野田地区

2002年

日 田 市 教 育 委 員 会

高瀬条里深野田地区全景

序　文

今回報告いたします本書は、高瀬地区の交通安全及び交通緩和策として、計画・実施されました市道平原捨ノ平線道路改良工事に伴いまして行われました発掘調査の記録です。

日田市高瀬地区には、永平寺跡板碑や普門寺笑厳和尚坐像、安養寺阿弥陀如来坐像をはじめとする中世期の数多くの貴重な文化財があり、これらは地元住民の方々のご努力により、今日まで残されてまいりました。

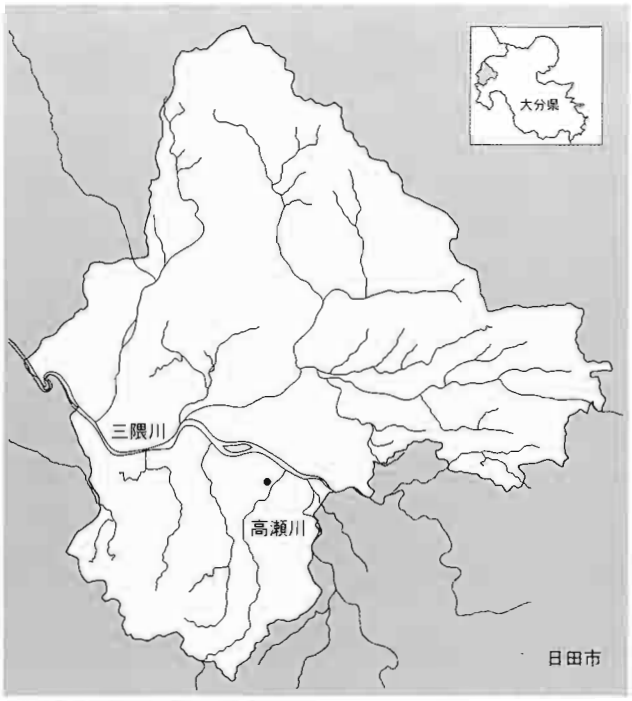
今度の調査によりまして、それらの文化財よりもさらに古い高瀬地区の歴史があったことを伺い知ることができました。

本書が、高瀬地区をはじめとする市民の皆様に、歴史の一端を垣間見る資料としてご活用いただければ幸いです。

調査にあたりまして、快くご協力くださいました地元の皆様方、関係者の方々にたいしまして、心より感謝を申し上げます。

平成14年3月29日

日田市教育委員会
教育長　後　藤　元　晴



高瀬条里深野田地区位置図

例　言

1．本書は、市土木課が計画・実施した市道平原―捨ノ平線道路改良工事に伴い発掘調査を行った『高瀬条里深野田地区』の報告書である。市道平原―捨ノ平線に伴う報告書は、平成７年度に１期工事として終了した路線東側半分の調査報告書『惣田遺跡』に次ぐ２冊目である。

2．高瀬条里深野田地区は、国道210号線バイパスに伴い、大分県が『高瀬深ノ田遺跡』として隣接地を発掘調査しているため、本調査区はそれに続く２次調査区とする。

3．高瀬条里深野田地区の調査にあたっては、地元の地権者の方々、及び市土木課、工事関係者には様々なご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

4．本書に掲載した写真のうち、空中写真撮影については（有）スカイサーベイ九州の委託により、個別の遺物写真撮影については（有）雅企画　長谷川正美氏の委託によるものを使用した。

5．本書に掲載した遺物のトレースについては（有）雅企画　財津香奈子氏の委託によるものを使用した。

6．現場での個別の遺構実測及び遺構写真撮影ならびに報告書に掲載した遺物実測については、担当者が行った。

7．遺跡からの出土遺物、及び実測図・写真についてはすべて日田市埋蔵文化財センターに保管している。

8．本書の執筆・編集は行時が行った。

本文目次

巻頭カラー図版
序文
例言
目次

Ⅰ.はじめに …… 1
1.調査に至る経過 …… 1
2.調査組織の構成 …… 2
3.調査の経過 …… 2
Ⅱ.遺跡の立地と環境 …… 3
Ⅲ.調査の内容 …… 5
1.調査の概要 …… 5
2.遺構と遺物 …… 5
1）竪穴遺構 …… 5
2）土坑 …… 7
3）溝 …… 8
4）調査区内出土遺物 …… 8
Ⅳ.調査のまとめ …… 11
1.縄文時代の遺構と遺物について …… 11
2.古墳時代の遺構と遺物について …… 11
3.調査区周辺における遺跡のあり方について …… 12

挿図目次

第1図　工事路線とこれまでの調査区位置図（1/5,000）
第2図　調査区周辺の主要遺跡位置図（1/20,000）
第3図　調査区位置図（1/5,000）
第4図　Ⅰ区遺構配置図（1/200）
第5図　1号竪穴遺構実測図（1/40）
第6図　1号竪穴遺構出土遺物実測図（1/3）
第7図　1号土坑実測図（1/30）
第8図　2号土坑実測図（1/30）
第9図　3号土坑実測図（1/30）
第10図　4号土坑実測図（1/30）

第11図　調査区内出土遺物実測図（1/3・2/3）
第12図　１次調査区と２次調査区位置図（1/1,000）

表目次

第１表　調査区出土土器観察表

図版目次

巻頭図版　高瀬条里深野田地区全景
写真１　Ⅱ区トレンチ完掘状況
図版１　（上）遺跡全景（真上より）
　　（下）１号竪穴遺構（真上より）
図版２
　　（左　　上）１号竪穴遺構埋土堆積状況　　（右　　上）１号竪穴遺構完掘状況
　　（左２段目）１号土坑完掘状況　　（右２段目）２号土坑埋土堆積状況
　　（左３段目）２号土坑完掘状況　　（右２段目）３号土坑完掘状況
　　（左　　下）表土除去作業風景　　（右　　下）調査作業風景
図版３　調査区出土遺物１
図版４　調査区出土遺物２

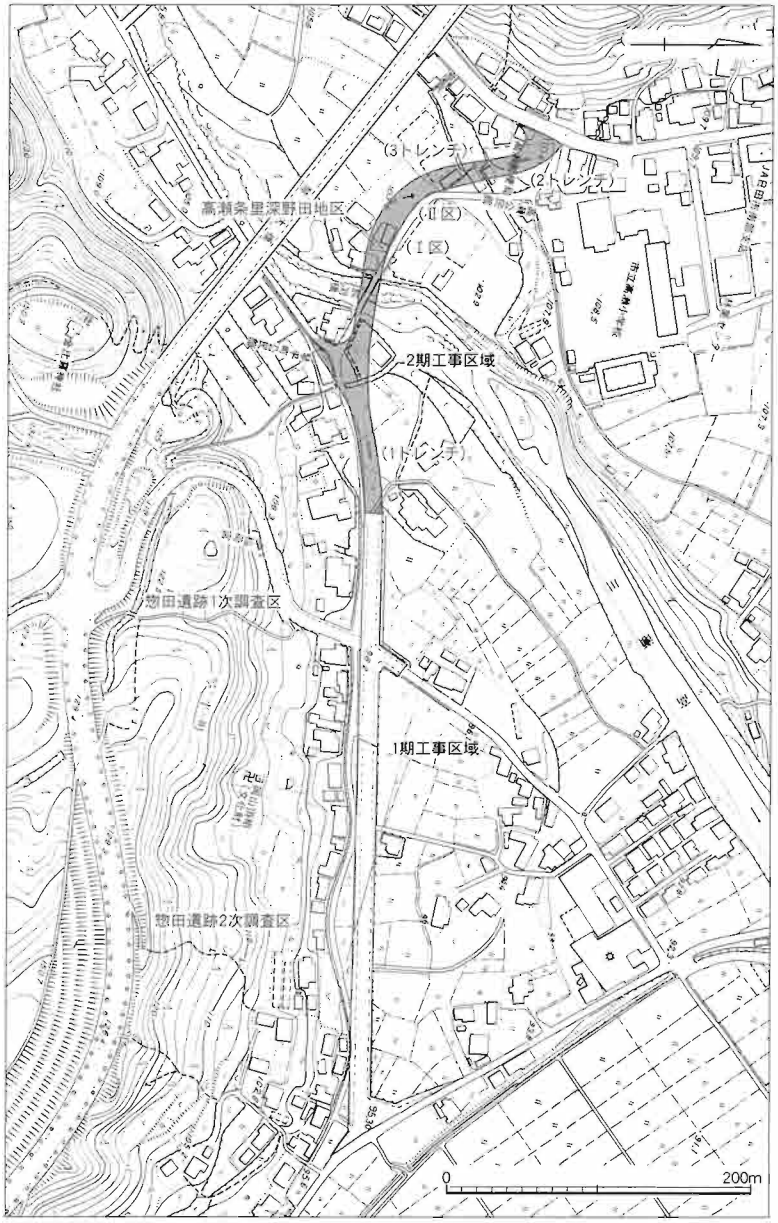
Ⅰ.はじめに

1.調査に至る経過

市道平原捨ノ平線は、大分県北・日田地方拠点都市地域の重点路線として事業計画がなされ、県道鹿本日田線と県道小畑日田線を結ぶ都市計画決定街路として平成元年より平成5年度まで1期工事が行われた。この区間については、平成3・4年度に惣田遺跡として発掘調査を実施し、弥生時代や古代の遺構が発見されている[1]。その後、1期工事区域より先の道路の幅員が狭いことから、地元住民の交通の安全を図ることを目的とし、さらに国道210号線沿いに建てられたサッポロビール工場へ訪れる観光客などに伴う交通渋滞などの緩和策としても有効であることから、平成10年度から平成13年度まで残り区間約1,300mを対象に2期工事が実施されることとなった。

工事に先立ち、用地購入の終了した高瀬川より東側の地点についての照会が提出され、平成12年5月25日に国庫補助事業による試掘調査を実施した（1トレンチ）が、遺物は出土したものの遺構の存在は確認されなかったことから、この区域についての埋蔵文化財の調査については行う必要がないと判断した。その後、工事が平成13年度で終了する予定であることから、高瀬川より西側区間についても埋蔵文化財の調査が必要かどうか早急に判断するよう土木課より試掘調査の依頼があったため、1カ所のみ用地購入の終了した地点において平成12年11月28日に試掘調査を実施することとなった（Ⅰ区）。調査の結果、ここからは土器片などの遺物とともに柱穴あるいは土坑といった遺構の存在も明確に確認されたため、その後の協議の中でまだ用地購入が終了していない区域も含めて、平成13年度に調査を実施する方針となった。

平成13年度については、当初すべての路線内の用地購入が終了した時点で入るよう協議を行っていたが、用地購入の時期が部分的に遅れていることと文化課の調査スケジュールの都合がつかないため、このままでは工事実施に支障を来たす



第1図　工事路線とこれまでの調査区位置図（1/5,000）

恐れもあることから、用地購入の終了した土地について、平成13年7月19日に調査範囲を絞り込むための再度試掘調査を行った（2・3トレンチ）。この調査の結果、遺構や遺物は確認されず、調査対象地は昨年度実施して遺構の確認された区域から、その上の製材所のある区域（Ⅱ区）までに限られることになった。この結果を受けて、土木課と再度協議を行い、区間が狭まったことにより調査期間も短縮される見込みであること、工事が今年度で終了しなければならないこと、文化課内でのスケジュール調整も可能であることから平成13年8月8日より本格的な発掘調査を実施することとなった。

註）土居和幸編『惣田遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第8集　日田市教育委員会 1994

2. 調査組織の構成

調 査 主 体　日田市教育委員会

調査責任者　日田市教育長　後藤元晴

調 査 事 務　文化課課長原田俊隆　同課長補佐石井英信　同主査島崎誠司　同主任園田恭一郎
同臨時職員原田恭子

調　査　員　文化課主任行時志郎（調査担当）　同主任吉田博嗣　同主事若杉竜太（試掘担当）
同主事渡邊隆行

調査作業員　渡返芳五郎、高野瞳、坂本今朝人、坂本都美子、宇野慎吾、宇野京子、横尾安男、
横尾フサエ、小野忠臣、横尾テル子、梶原巳年、野村勉

整理作業員　梶原ヒトエ、吉田千津子、鍛冶屋節子、佐藤みち子、川原君子、安本百合、
田中静香、伊藤一美

3. 調査の経過

調査は、試掘調査で遺構の確認された区域をⅠ区とし、その西側の製材所敷地内をⅡ区とした。調査前に行った土木課及び製材所の地権者との協議では、道路予定地内に残されていた資材の撤去が8月末までに終了するとの話であったため、まずⅠ区の調査を行い、資材の撤去およびⅠ区の調査が終了した時点でⅡ区の調査にかかることを打ち合わせた。

Ⅰ区の調査では、対象地とした土地のうち、Ⅱ区と接する場所は、民家への出入り道となっていたため、この場所については調査対象地からはずすこととなった。調査は8月8日から機械による表土除去作業を開始し、延2日間で終了した。途中お盆を挟んで作業員を投入し遺構の掘り下げ作業を進め、8月22日には、基準点の設置を委託するとともに実測作業を開始し、8月31日には上空からの空中写真撮影を実施し、9月7日にはⅠ区の調査を終了した。

その後Ⅱ区の調査に移っていく予定であったが、Ⅱ区における資材の撤去がはかどらないため、それが終了するまで調査を一時中断し、待機することとなった。この間、Ⅱ区の調査方法について、土木課と地権者を含めて協議し、資材を撤去しても道路用地とは反対側に製材に使用する木材を置いており、今後調査に入ってもこの木材の搬入搬出経路については、残してもらいたいとの地権者の意向があったため、それについては残す方針で調査を行うこととなった。こうした事情からこの調査に先立って、すべてこのⅡ区はコンクリート舗装を行っていたこともあり、まず一端機械のバケットが入る範囲でトレンチを設定し、コンクリートを除去した後にその範囲内で遺構検出作業を

行い、確認された遺構の広がりを見ながら、次に全体に調査範囲を広げていく方法をとることとなった。調査は9月20日から前述の方法で開始したが、トレンチの状況をみると、地山の大半は砂レキ層となっており、一部黒色土の遺物包含層も検出されたものの、遺構の存在は確認されなかった。Ⅰ区の状況からも西側にかけては遺構の広がりが希薄となっており、これは同じく大分県が隣接地を調査した地点においてもほぼ同様の結果が得られていることから、これ以上広げても遺構の存在が確認される可能性は少ないと判断し、Ⅱ区についてはこのトレンチ調査で終了することとなった。

写真１　Ⅱ区トレンチ完掘状況

Ⅱ．遺跡の立地と環境

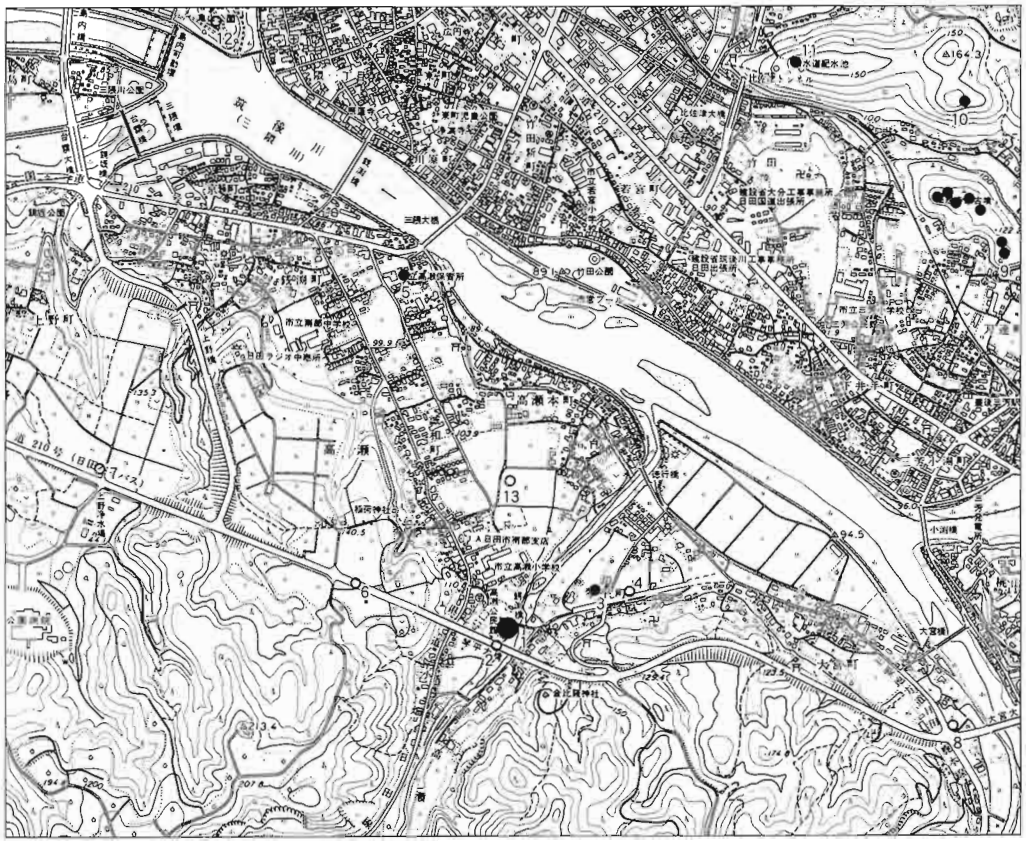
高瀬条里深野田地区は日田盆地南部、高瀬川左岸河岸段丘上に存在する。遺跡の南側には、津江山系より派生する尾根筋が迫っており、その先端には沖積地との比高差約30メートル程の台地や丘陵が広がっている。その間を縫うように高瀬川が盆地に向かって流れ、西走する三隈川と合流する。この合流点付近は、三隈川と高瀬川の浸食作用により河岸段丘が形成され、やや平坦な沖積地が広がっている。調査区はこの沖積地が扇状に広がっていく要のある位置にあたる。現在この一帯は、大宮町や琴平町、高瀬本町などの集落が山裾の小高い場所に帯状に連なって立地している。耕地の大部分は水田であるが、これは近年高瀬川や大山川の上流にダムや井関が設けられ、灌漑施設が充実するようになった昭和30年代以降のことで、それまでは畑作が主であったとおもわれる。本遺跡より北側の高瀬川左岸は、その土地の区画が碁盤目状となっており、早くからこの土地が開発されていったことを物語っている。

これまでの発掘調査の成果をもとに周囲の遺跡の動向を見てみると、本遺跡と隣接するすぐ南側河岸段丘上には、国道210号線バイパス工事に伴い発掘調査が実施された高瀬条里深ノ田遺跡が存在し、弥生時代後期終末から古墳時代前期の竪穴住居跡や古代の土坑が検出されている。また、高瀬川を挟んで右岸の河岸段丘上には、市道平原捨ノ平線Ⅰ期工事に伴い発掘調査された惣田遺跡が存在し、弥生時代中期の土坑や後期の大溝のほか、古代の竪穴住居跡が発見されている。この惣田遺跡の北側には、横穴式石室の主体部をもつ古墳時代後期の惣田塚古墳が存在し、さらに本遺跡の北側、三隈川を眼下に見下ろす河岸段丘の先端部には、竪穴式石室の主体部をもち、蛇行剣を副葬していた古墳時代中期の姫塚古墳が存在する。また、本遺跡の北側には分譲住宅建設に伴い発掘調査が行われた高瀬条里永平寺地区が存在し、中世期の掘立柱建物群が約9棟検出された他、この遺跡に隣接するお堂の横には、14世紀初頭に建てられた紀年銘のある2基の板碑が安置されている。

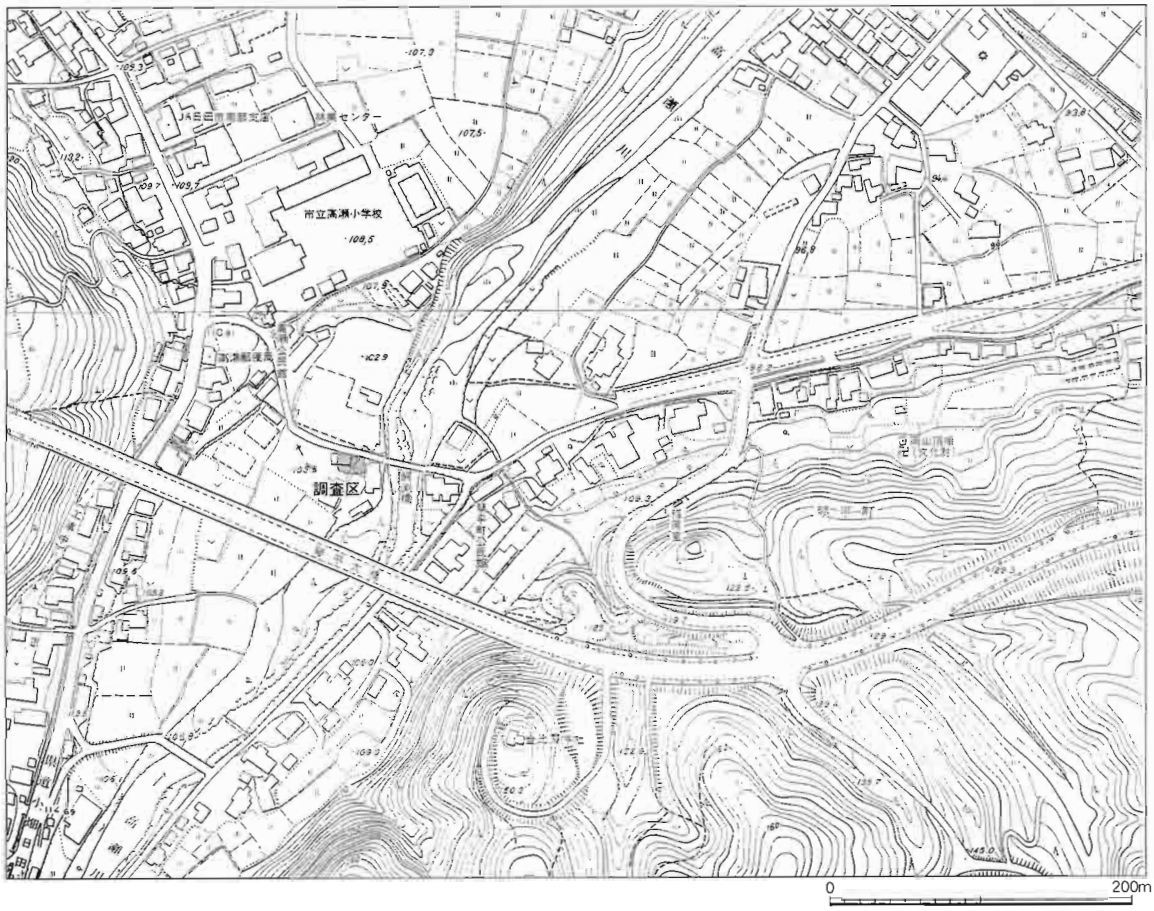
参考文献

1）　田中祐介・友岡信彦編「高瀬深ノ田遺跡」『日田市高瀬遺跡群の調査Ⅰ』一般国道210号線日田バイパス建設に伴う発掘調査報告書Ⅰ　大分県教育委員会　1995

2）　土居和幸編『惣田遺跡』日田市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集　1994



第２図　調査区周辺の主要遺跡位置図（1/20,000）



第３図　調査区位置図（1/5,000）

Ⅲ. 調査の内容

1. 調査の概要

調査区内での遺構検出面（地山）は、黄灰色の砂質性の強い土で、その面までの深さは、現地表から平均で約 30 ～ 40cm を測る。地形は、全体的にほぼ平坦に近く、高瀬川のある東側に向かって緩やかに傾斜している。調査区南東コーナー付近では、黒褐色の縄文時代の遺物包含層が 10 ～ 20cm の厚さで堆積している様子が確認された。また、反対に高くなっている西側では、次第にレキ層が広がり、調査区内においては、そのレキ層を掘りこんでピットも検出されたものの、さらに西側の２区の調査地点に設定したトレンチ内においては、地山の大部分が砂レキ層となっており、遺構等については確認できなかった。またここからは、縄文時代の土器片が１点のみ出土した。

調査区内では、最終的に竪穴遺構１基、土坑４基のほか約 40 個ほどのピットが認められた。これらのピットは、調査範囲が狭いため、建物あるいはその柱穴として扱うことができなかったが、遺物については、次節の最後にその中から出土したものも含めて図示している。

2. 遺構と遺物

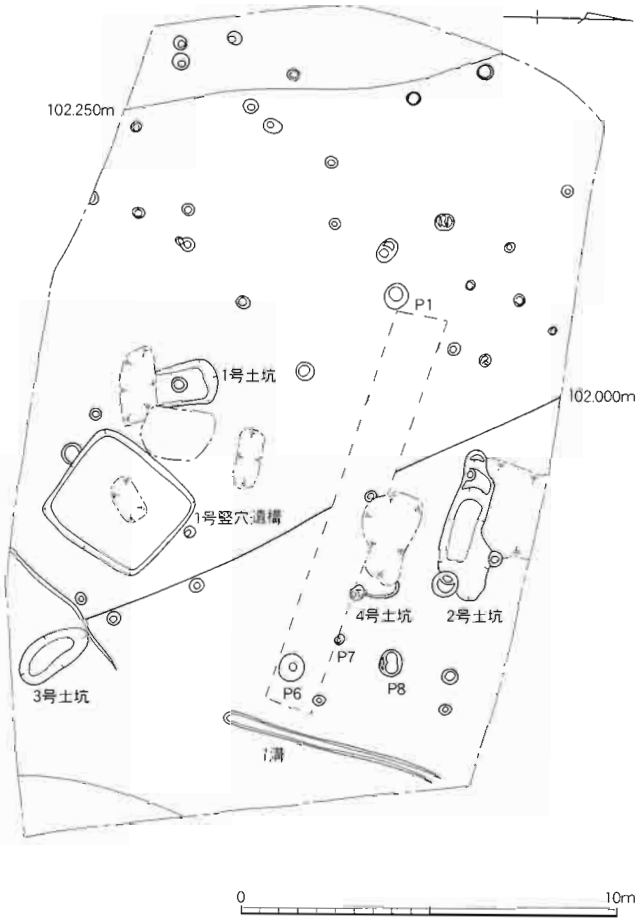
１）竪穴遺構

１号竪穴遺構（第４・５図）

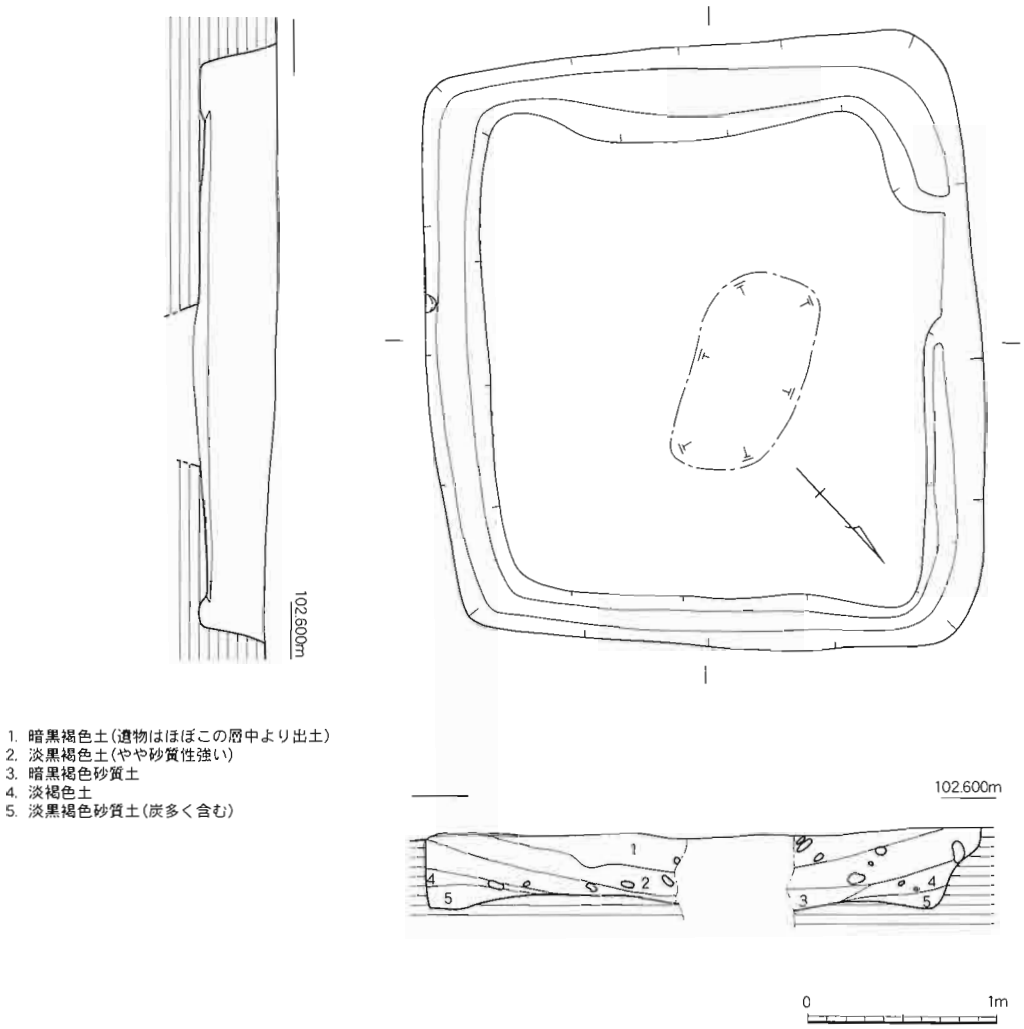
調査区南東側で確認され、長軸 3.2m 、短軸 3.0m 、深さ約 40cm を測る隅丸長方形プランを呈する。壁面沿いには、浅い周溝がほぼ全周している。床面は、砂レキ層となっているため、１cm 程度の粘土による貼床が丁寧にほどこされていた。遺構中央には、本来炉跡が存在していたと推測されるが、電柱の基礎がその位置にすでに打ち込まれ撹乱を受けていたため、その存在の有無については不明である。遺構の中からは、小破片の土師器が多く出土したが、ほとんどは上層の遺物であり、使用時のものではなく、廃絶後に流れ込んだものであろう。

１号竪穴遺構出土遺物（第６図）

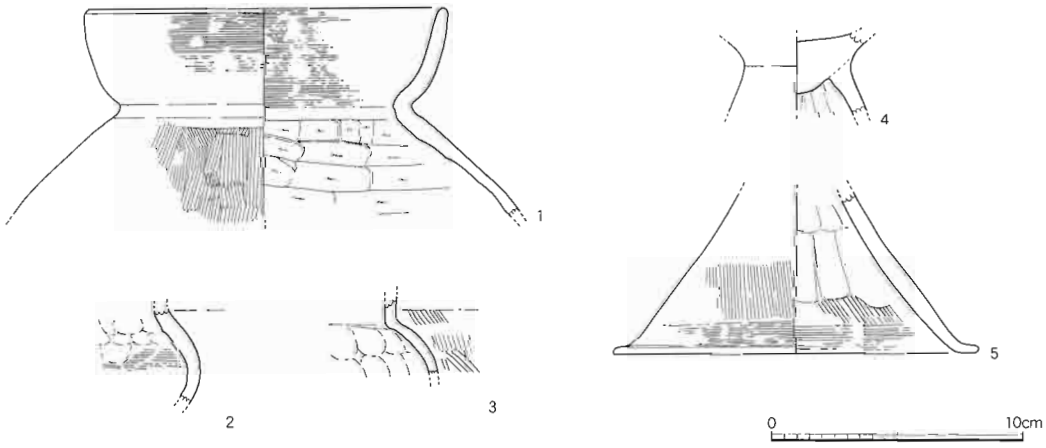
１は甕である。頸部から口縁部にかけては、一端外に広がり、そこから屈曲して直口気味に端部に延びる。胴部は球形に大きく広がる。外面ハケ、内面口縁付近は横ハケ、胴部は横方向のヘラ削りが施される。２・３は小型の壷である。２は頸部から胴



第４図　Ⅰ区遺構配置図（1/200）



第５図　１号竪穴遺構実測図(1/40)



第６図　１号竪穴遺構出土遺物実測図(1/3)

部にかけてはあまり広がらず、胴部中位に最大径をもつ。外面ナデ、内面指頭圧痕が顕著に見られる。３は口縁部が直口気味となるタイプで胴部は肩が張る。外面ハケ、内面指頭圧痕が顕著に残る。４・５は高坏である。４は柱状部片で坏体部を深く沈めている。５は脚部で、裾が大きく広がる。底端部は平坦に屈曲する。外面ハケ、内面ヘラ削りが施される。

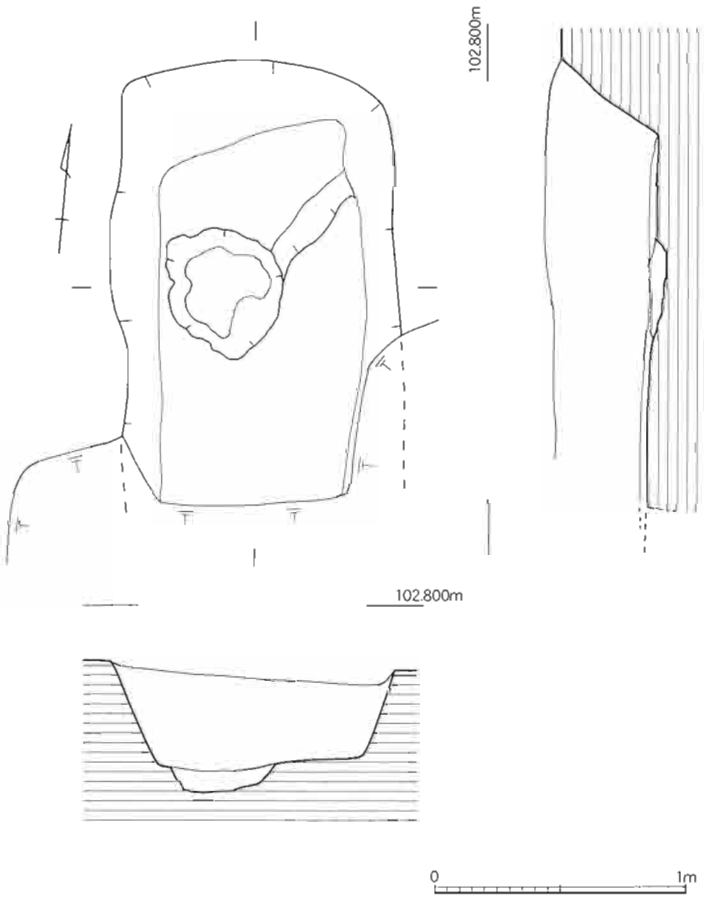
２）土坑

１号土坑（第４・７図）

調査区のやや南側で検出された。遺構の南側は、電柱設置による撹乱を受けているが、残りの部分での検出面の規模は、長軸 1.75m ＋ α、短軸約 1.2m の長方形プランを呈し、底面までの深さは約 40cm を測る。壁面はやや斜め方向に立ち上がり、底面はほぼ平坦となっている。底面やや北側よりには直径約 40cm、深さ約 10cm 程度の浅いピットが掘り込まれていた。この土坑の中からは、数点小破片で図示できなかったが、縄文時代と見られる土器片が出土した。

２号土坑（第４・８図）

調査区の東端で検出された。遺構の北側は一部建物基礎による撹乱を受けているが、ほぼ全体のプランは確認できた。検出面の規模は、長軸約 3.8m、短軸約 1.5m の不定形プランを呈し、底面までの深さは最も深い場所で約 90cm を測る。壁面はやや斜め方向に立ち上がり、底面は最も低い位置でほぼ平坦となっているが、西側はテラス状に段が見られる。底面の北東部コーナー付近には小さなピットが見られた。この土坑の土層を見ると、中央に黒褐色の埋土が斜め方向に深く堆積しており、その両側の堆積層を切る形となっている。この状況から土坑の性格としては、自然の風倒木痕の可能性が高いと推測される。土坑の中からは、縄文時代の土器片が多数出土した。



第７図　１号土坑実測図（1/30）

３号土坑（第４・９図）

調査区南東部には黒褐色の含土を呈する縄文時代の遺物包含層が約10cm程度の厚さで堆積しており、遺構はこの包含層を掘り下げる過程の中で検出された。遺構の検出面の規模は、長軸1.8m、短軸約0.9mのやや楕円形プランを呈し、底面までの深さは約20cmを測る。壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がり、底面は浅い皿状を呈している。この土坑の中からは、縄文時代の土器片が数点出土した。

４号土坑（第４・10図）

調査区のやや東側で検出され、西側は建物基礎による撹乱を受け、また南側は試掘トレンチにより削られ全体プランは不明である。遺構の検出面の残存長は、南北長約1.1 m、東西長約0.5m、底面までの深さは約5cmを測る。壁面は斜め方向に緩やかに立ち上がり、底面は平坦となっている。この土坑の中からは、縄文時代の土器片が数点出土した。

３）溝

１号溝（第４図）

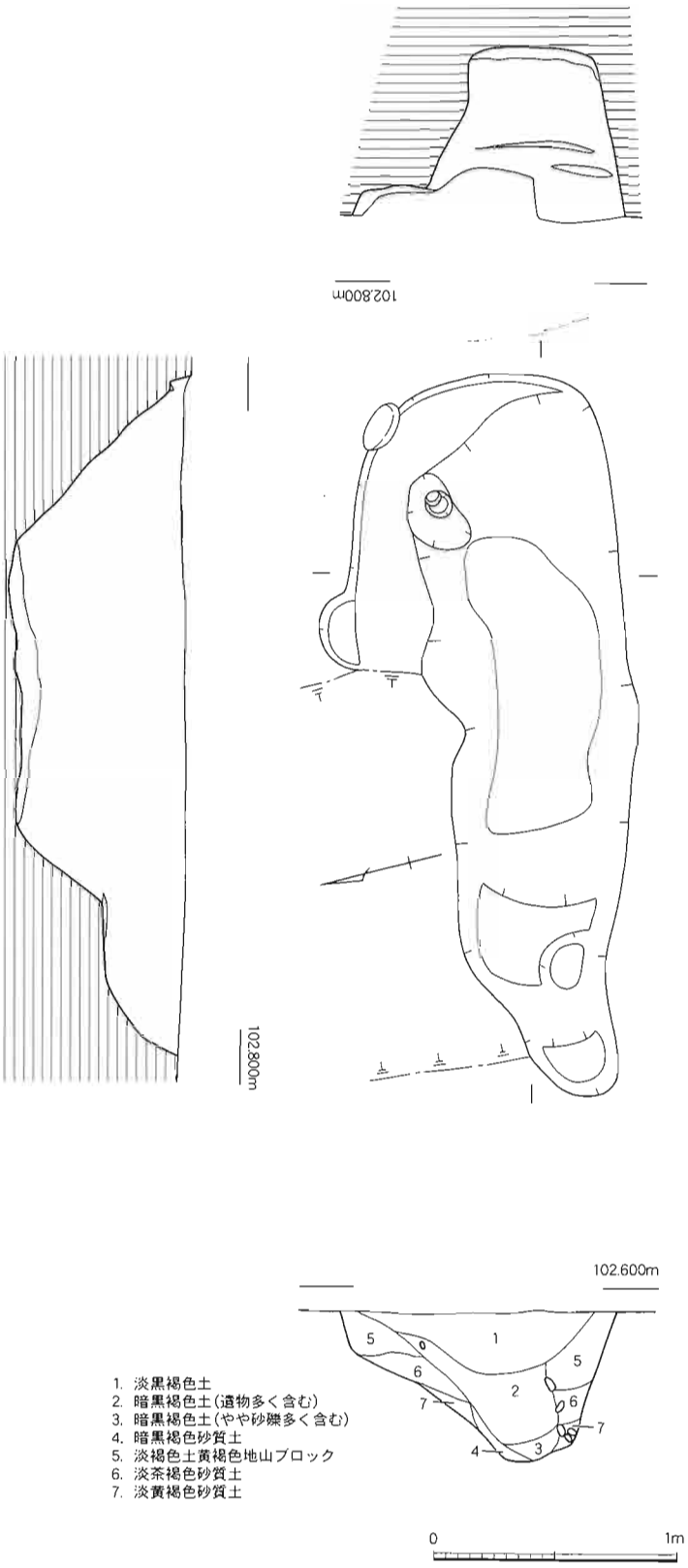
調査区の東端で検出された溝で、南側は調査区中央で途切れ、北側は調査区外に続く。溝の残存長約　m、幅約20cm、深さ約10cmを測る。

４）調査区内出土遺物

調査区内からは、土坑をはじめとして、ピット、包含層などから数少ないながらも縄文時代の貴重な遺物が出土した。ここではまとめてそれらの説明を加えることにする。

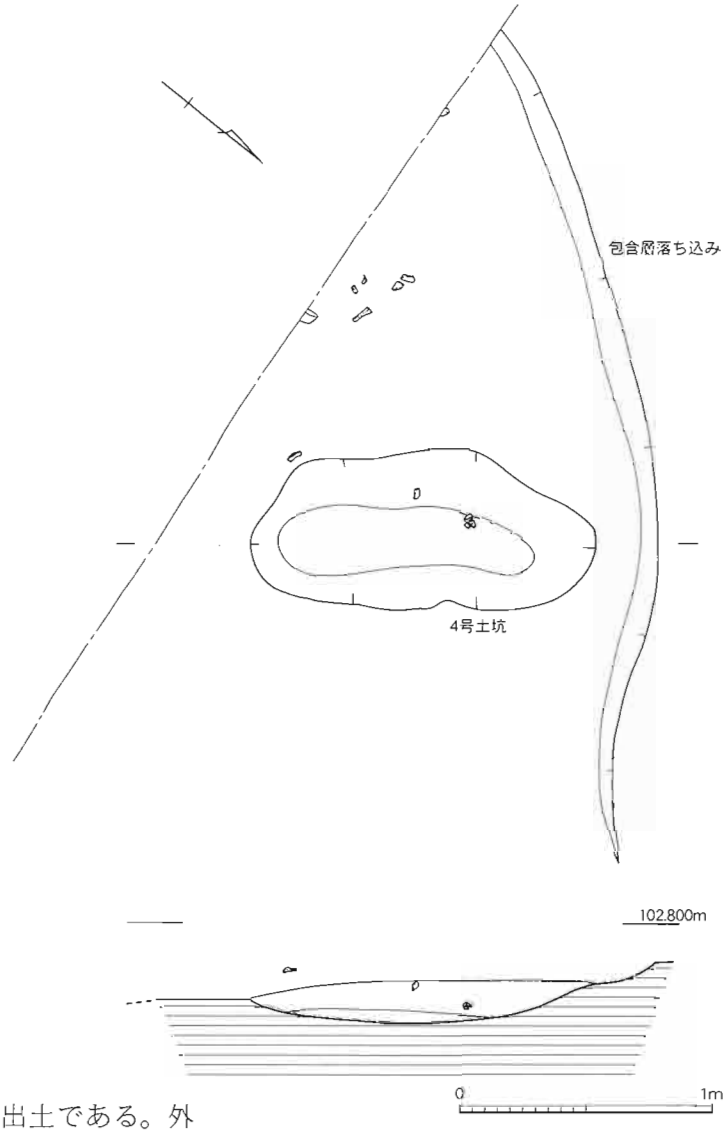
土器（第11図）

１・４・９・11～13は２号土

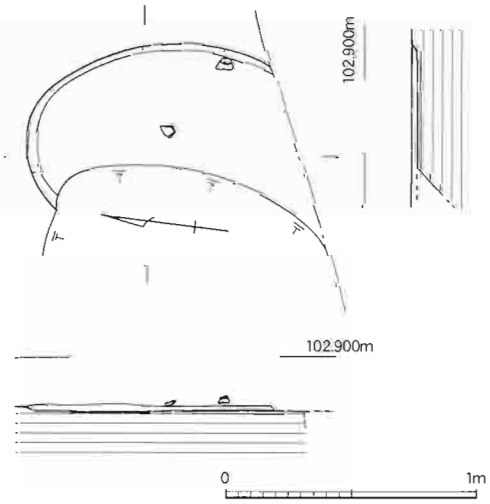


第８図　２号土坑実測図(1/30)

坑出土である。1は無文の深鉢で口縁部にかけてはやや内湾気味にのびる。内外面条痕が残る。4も無文の深鉢で、口縁部にかけては斜め方向に直線的にのびる。外面条痕が顕著に残る。9は有文の鉢胴部で、横方向に複数の沈線文を施す。11～13はいずれも底部で、底端部はやや外に張り出し、外反気味にのびる。11・12は内外面とも指頭圧痕が顕著に残り、13は内外面条痕が見られる。2は3号土坑出土である。口縁部はほぼ直口気味にのび、外面2条にわたり、刺突による爪型文を施す。7・16は4号土坑出土である。7は有文の鉢胴部片で、外面沈線による渦状文を、文様帯上部には磨消縄文が施される。16は底部片で、内外面とも指頭圧痕が顕著に残る。5はP1出土である。有文の深鉢胴部片で、外面横『V』字の沈線とその間に磨消縄文を施す。6はP6出土である。口縁部片で口縁外面に1条の沈線を施す。14はP8出土である。外面指頭圧痕が顕著に見られる。3・15・17は調査区南東の黒褐色包含層の出土である。3は無文の深鉢で、外面条痕が顕著に見られる。15・17はいずれ底部片で、17は内外面とも条痕・擦痕が顕著に残る。10は1号竪穴遺構出土である。有文の鉢胴部で、短い『つ』状の沈線とその間に磨消縄文を施す。8はⅡ区トレンチ出土である。有文の鉢胴部で、横方向に4本の沈線文が施される。



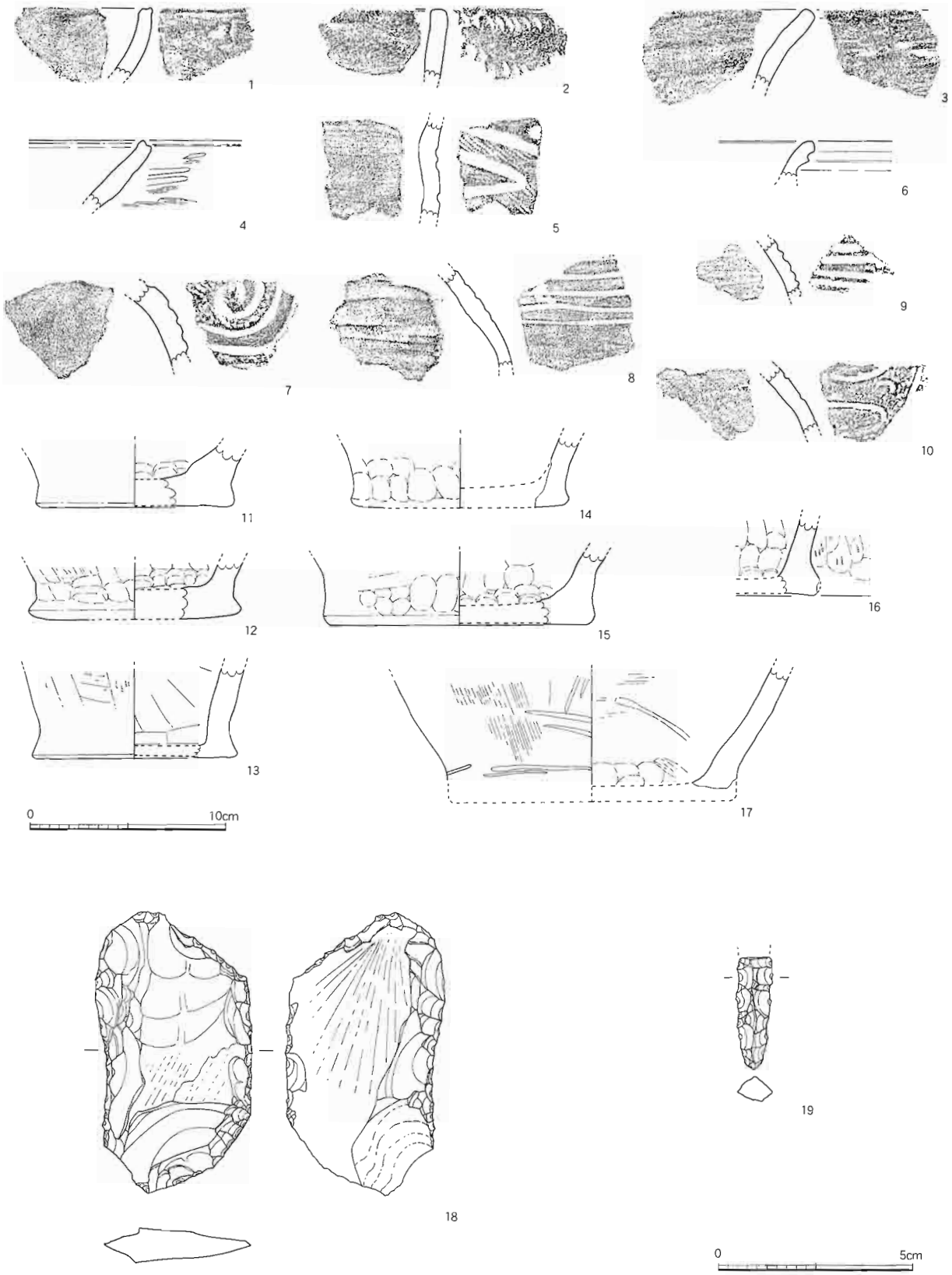
第9図　3号土坑実測図(1/30)



第10図　4号土坑実測図(1/30)

石器（第11図）

18は2号土坑出土のスクレイパーである。全長7.3cm、最大幅4.0cmを測る。石材は安山岩である。19はドリルの基部である。残存長2.8cm、最大幅約0.9cmを測る。石材は姫島産黒曜石と思われる。



第 11 図　調査区内出土遺物実測図 (1/3・2/3)

Ⅳ．調査のまとめ

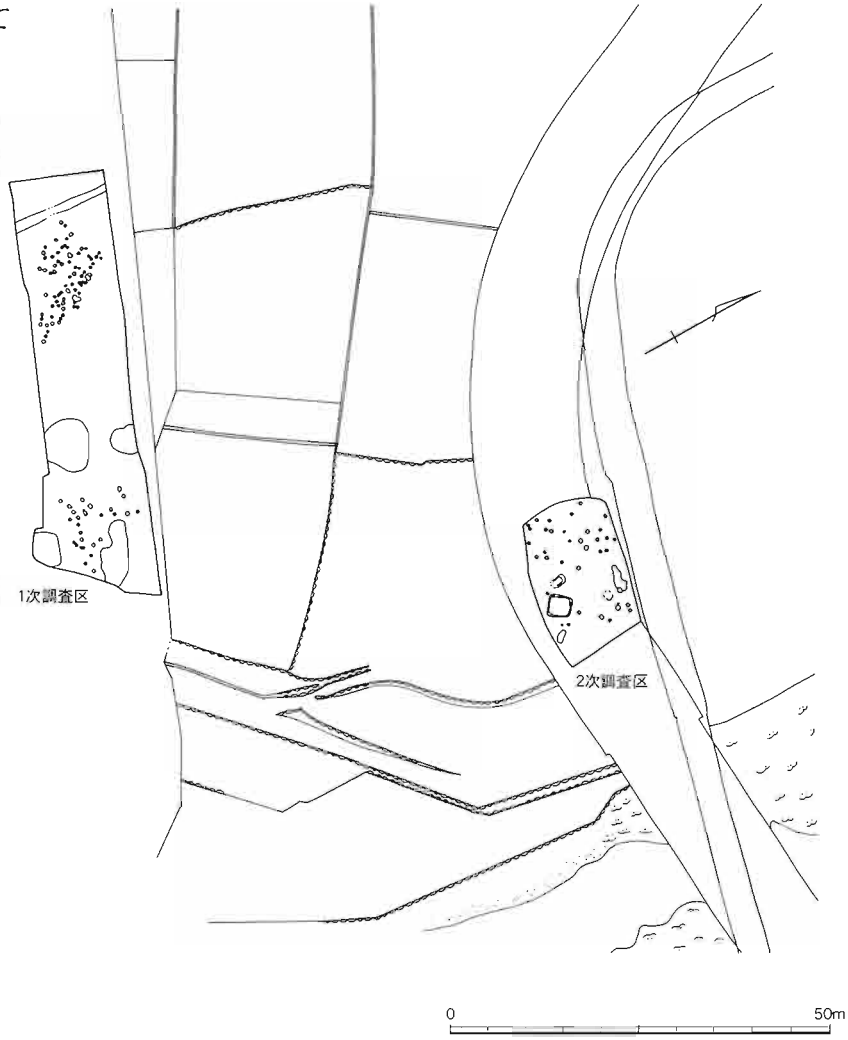
本調査区からは、竪穴遺構１基、土坑４基のほかピット、包含層などが検出された。以下、それぞれの遺構の時期について検討する。

１．縄文時代の遺構と遺物について

この時代の遺構としては１～４号土坑およびピット・包含層があげられる。これらの遺構のうち１号土坑については、南側が撹乱により不明であるが、遺構の平面形を推測すると、しっかりした長方形のプランを呈しており、また床面にピットが存在することなどから落穴遺構の可能性が高いと推測される。その他の遺構については不明であるが、２号土坑は土層から風倒木痕の可能性が高い。これらの遺構の中からは、それぞれから少量ながら縄文時代の遺物が出土したが、その遺物の時期について見てみると、４号土坑出土７やＰ１出土５、１号竪穴遺構出土 10 はいずれも縄文時代後期の特徴である磨消縄文が施され、また施文方法をみると、渦状沈線や数条の横走沈線を施すものが大半であった。これらの特徴をもつ土器群は宇佐郡安心院町飯田二反田遺跡の竪穴住居跡群から一括して多数出土している。このことから、本遺跡出土遺物は飯田二反田遺跡とほぼ同じ時期の後期前葉～中葉にかけての時期と考えられる。

２．古墳時代の遺構と遺物について

この時代の遺構としては１号竪穴遺構があげられる。この竪穴遺構は、中央が撹乱を受け、炉跡の存在については不明であるものの、掘り方がしっかりしており、貼床及び周溝を備えていることから竪穴住居跡と考えられる。この竪穴遺構の中からは少量であるが土師器片が出土している。これらの土器のうち、甕は前期によく見られる複合口縁の退化した形態を呈し、高坏は坏部を脚部の中に押し込めた部分が削られずにそのまま残っており、古墳時代中期の特徴を備えている。市内のこの時期の遺構としては、日出盆地西部の荻鶴遺跡鍛冶遺構や祭祀遺構・１号溝などがあり、それらの中からは、本調査区の竪穴遺構出土遺物の特徴に類似している土師器が出土している。このことから、１号竪穴遺構はほぼそれらの遺構と同



第 12 図　１次調査区と２次調査区位置図（1/1,000）

じ５世紀前半～中頃にかけての時期と考えられる。

３．調査区周辺における遺跡のあり方について

本調査区の西側は、高瀬条里深ノ田遺跡として、国道210号線バイパス建設に伴ってすでに発掘調査が行われ、弥生時代後期末～古墳時代前期と推測される竪穴住居跡や古代と推測される土坑などが検出されている（１次調査)。この調査区においても、今回の２次調査区と同様に、高瀬川の河岸段丘のすぐ側で遺構が確認されている。このことは、この高瀬川流域の沖積地一帯が、川との比高差があり、比較的洪水などに見舞われる危険性の少ない自然堤防であったことにより、こうした川のすぐ近くでも集落を営むことができた要因であったと推測される。このことにより、この地域の開発は早くに進み、中世には高瀬条里永平寺地区の発掘調査で確認された建物群や条里跡と見られるような整然とした田畑の区画に表されるような現代に繋がる集落景観が形づくられていったものと考えられる。

参考文献

１） 宮内克己他編「飯田二反田遺跡」『宇佐別府道路に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（１)』大分県教育委員会　1993

２） 行時志郎編『荻鶴遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第９集　日田市教育委員会　1995

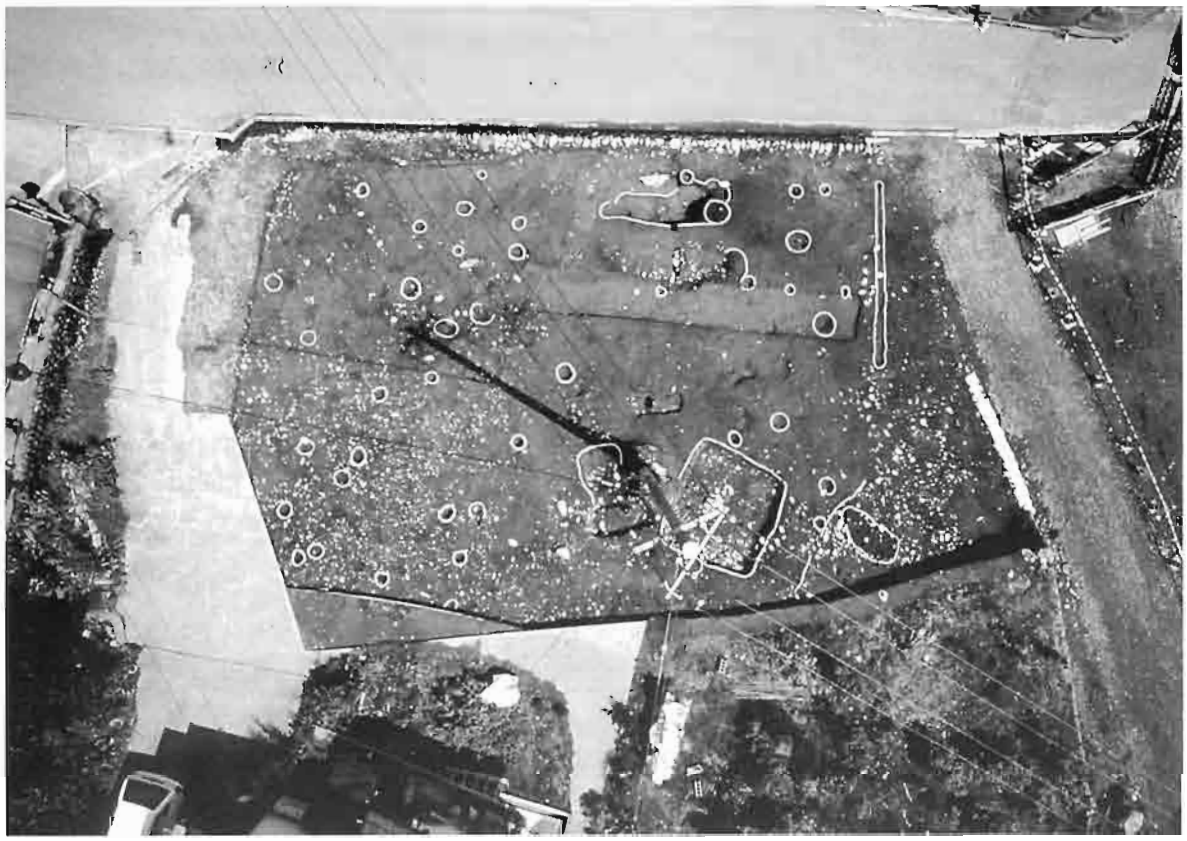
３） 友岡信彦編「高瀬深ノ田遺跡」『日田市高瀬遺跡群の調査Ⅰ』大分県教育委員会 1995

第１表　調査区出土土器観察表

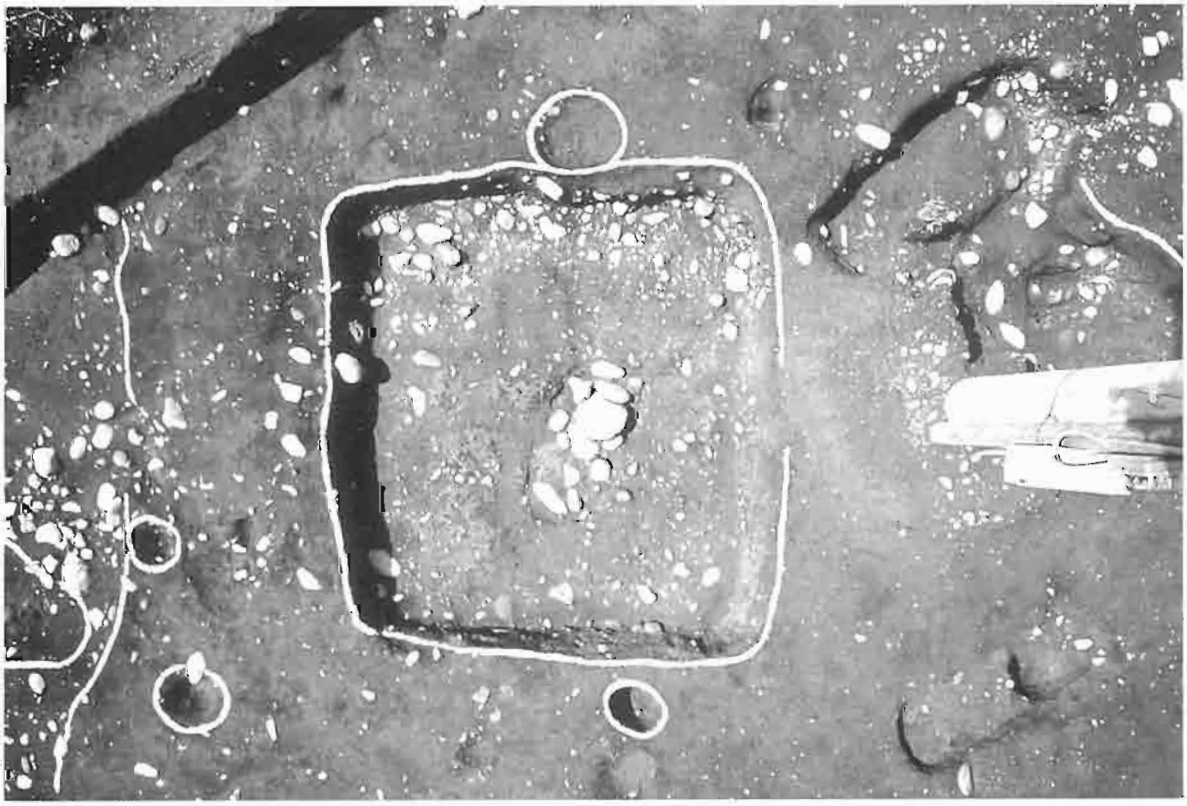
挿図番号	遺物番号	遺構名	種別	器種	法量（　）は復元径(cm)			胎土	色調	備考
					器高	口径	底径	石英／A・長石／B 角閃石／C・細砂粒／D		
第６図	1	1号竪穴	土師器	甕		(14.6)		A.B.C	淡茶褐色	
第６図	2	1号竪穴	土師器	壺				A.B.C	淡褐色	
第６図	3	1号竪穴	土師器	壺				A.B.C	淡褐色	
第６図	4	1号竪穴	土師器	高坏			(14.6)	A.B.C	淡褐色	
第６図	5	1号竪穴	土師器	高坏				A.B.C	淡黄褐色	
第11図	1	2号土坑	縄文土器	深鉢				A.B.C	淡茶褐色	
第11図	2	3号土坑	縄文土器	鉢				A.B.C	淡黒褐色	
第11図	3	東側包含層	縄文土器	深鉢				A.B.C	淡黄褐色	粗製
第11図	4	2号土坑	縄文土器	深鉢				A.B.C	淡茶褐色	
第11図	5	P1	縄文土器	深鉢				A.B.C	淡褐色	
第11図	6	P6	縄文土器	鉢				A.B.C.D	淡褐色	内面 淡黒褐色
第11図	7	4号土坑	縄文土器	鉢				A.B.C	淡黄褐色	
第11図	8	Ⅱ区	縄文土器	鉢				A.B.C	淡灰褐色	
第11図	9	2号土坑	縄文土器	鉢				A.B.C	淡黄褐色	
第11図	10	1号竪穴	縄文土器	鉢				A.B.C	淡黄灰色	粗製
第11図	11	2号土坑	縄文土器	鉢			(10.6)	A.B.C	淡黄灰色	粗製
第11図	12	2号土坑	縄文土器	鉢			(11.0)	A.B.C	淡褐色	
第11図	13	2号土坑	縄文土器	鉢			(11.2)	A.B.C	淡黒灰色	
第11図	14	P8	縄文土器	鉢			(11.2)	A.B.C	淡黄褐色	粗製
第11図	15	東側包含層	縄文土器	鉢			(14.0)	A.B.C	淡茶褐色	内面淡褐色
第11図	16	4号土坑	縄文土器	鉢				A.B.C	外面淡茶褐色	
第11図	17	東側包含層	縄文土器	鉢				A.B.C	淡黄褐色	

写　真　図　版

図版 1



遺跡全景（真上より）



1 号竪穴遺構（真上より）

1 号竪穴遺構埋土堆積状況

1 号竪穴遺構完掘状況

1 号土坑完掘状況

2 号土坑埋土堆積状況

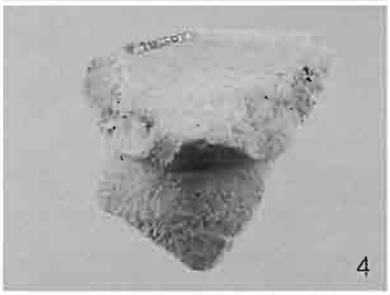
2 号土坑完掘状況

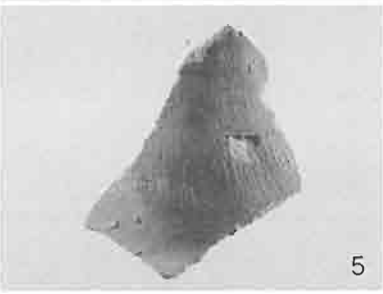
3 号土坑完掘状況

表土除去作業風景

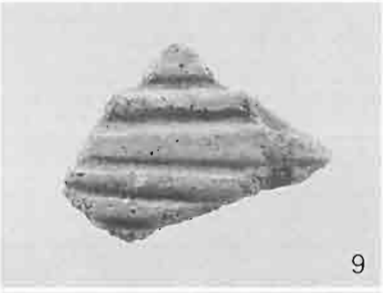
調査作業風景

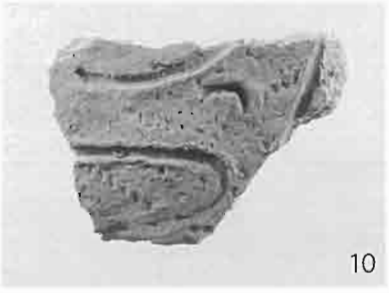
図版 3

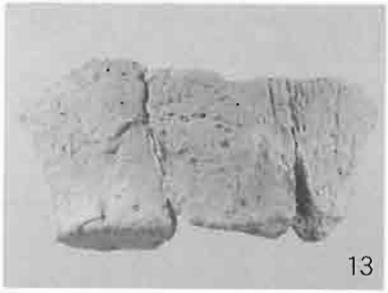


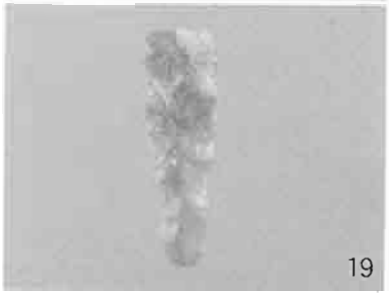


1 号竪穴遺構出土遺物









調査区内出土遺物
（※遺物番号は挿図番号に同じ）

報 告 書 抄 録

ふりがな	たかせじょうりふかのだちく
書名	高瀬条里深野田地区
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第36集
編著者名	行時志郎
編集機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2-6-1
発行年月日	2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかせじょうりふかのだちく 高瀬条里深野田地区	おおいたけんひたしおおあざ 大分県日田市大字 たかせあざふかのだ 高瀬字深野田950-1					20010808 ～ 20010928	300	道路改良工事

所用遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
高瀬条里深野田地区		縄文	土坑　4基	縄文土器・石器	
		古墳	竪穴遺構　1基	土師器	

高瀬条里深野田地区

日田市埋蔵文化財調査報告書
第３６集
平成１４年３月２９日

発　行　日田市教育委員会
大分県日田市田島2丁目6-1

印　刷　日田時報紙器印刷株式会社
大分県日田市三隅町345-3